



深瀬昌久
1961-1991
Masahisa Fukase
1961-1991

レトロスペクティブ | Retrospective

2023年3月3日[金] — 6月4日[日]

東京都写真美術館2階展示室

開館時間：10:00 - 18:00 (木・金曜日は20:00まで) ※入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日(ただし、5/1は開館)

観覧料：一般700円 / 学生560円 / 中高生・65歳以上350円

小学生以下、都内在住・在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名様まで)は無料。

本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：東京都写真美術館支援会員 | 協力：深瀬昌久アーカイブス

TOP MUSEUM

このたび東京都写真美術館では「深瀬昌久 1961-1991 レトロスペクティブ」展を開催します。深瀬昌久は自身の私生活を深く見つめる視点によって、1960年代以降の日本の写真史のなかで独自のポジションを築きました。それは写真の原点を求めようとする行為でもあり、のちに「私写真」と呼ばれ、写真家たちが向かった主要な表現のひとつとして展開していきます。深瀬は妻や家族など、身近な存在にカメラを向け、自身のプライベートを晒しながら、自己の内面に潜む狂気に意識を向けていきます。その狂気は、被写体に対する愛ある眼差しと、ユーモラスな軽やかさが混在し、深瀬作品を特別で唯一無二なものにしています。本展では、〈遊戯〉〈洋子〉〈烏(鴉)〉〈家族〉など、主要作品を網羅した東京都写真美術館のコレクションに加え、《無題(窓から)》〈洋子〉、日本大学芸術学部が1980年代初頭に収蔵した〈烏(鴉)〉、個人所蔵の〈ブクブク〉〈サスケ〉ほか、充実した作品群によって構成します。1960年代から90年代の初頭に活躍した深瀬昌久の軌跡を辿り、彼独自の世界に触れる機会とします。



1



2



3



4



5



6

- 1: 〈家族〉1971年、東京都写真美術館蔵
 - 2: 《ニューヨーク》〈洋子〉1974年、東京都写真美術館蔵
 - 3: 《美深町》〈私景〉1989年、東京都写真美術館蔵
 - 4: 《金沢》〈鴉〉1978年、日本大学芸術学部蔵 | 5: 《無題》〈サスケ〉1977-1978年、個人蔵
 - 6: 《戯、新宿》〈遊戯〉1967年、東京都写真美術館蔵 | [表面]《無題(窓から)》〈洋子〉1973年
- すべて©深瀬昌久アーカイブス

深瀬昌久 | 1934年北海道生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。日本デザインセンターや河出書房新社などの勤務を経て、1968年に独立。1960年代初期よりカメラ雑誌を中心に写真作品を多数発表。1974年、米・ニューヨーク近代美術館で開催された企画展「New Japanese Photography」を皮切りに、世界各国の展覧会に多数出品。代表作に〈遊戯〉〈洋子〉〈烏(鴉)〉〈家族〉〈サスケ〉などがある。1977年第2回伊奈信男賞、1992年第8回東川賞特別賞など受賞。2012年没、享年78。